



今年は、インフルエンザの流行がとても心配です。学校でも精一杯の感染対策を行っています。

論理的になるための方法は？

ちょっと意地悪問題です。

太郎さんがかぜをひきました。

だから、病院へ行こうと道を歩いていると・・・

その道沿いにいた牛がもう～と鳴き、ちょうがひらひら舞いました。

太郎さんの病気は何でしょう。

見学旅行のバスの中や校長室を訪れた子どもたちに、「意地悪問題だからね」と言いながら口頭で出してみると、引っかかってくれます。

「簡単だよ。それって、もうちょう（盲腸）でしょ！！」

そう、字面で読むと簡単そうに見えるこの問題は、（大人も含めて）多くの人が引っかかってしまいます。（かく言う私も、最初は引っかかってしまいました）

いや、風邪ですよ。最初に書いてあり（言って）ますもんね。

そうなんです。実は、ちゃ～んと書いて（言って）あるんです。でも、それを読み聞き飛ばすことのなんと多いことか。もちろん、私も、です。

都合よく読み飛ばす。だから、自分に都合のよい世界が見えてしまう。昨今のメディアで取り上げられる「バイアス」と呼ばれるものの正体だと、私は思っています。

翻って、すごい探偵と言われる人たち（ホームズに、ポアロに、そして久能整君ですかね）は、自分の都合で物事を見ない。映画やドラマ、物語のミステリモノを見たり読んだりするとき、私たちは（演出もあるでしょうが）すぐにミスリードされていきます。画面上に“にやり”とした顔が映った途端、「あっ、これ犯人だな」と、したり顔。そう思って見進める（読み進める）ものですから、出るものすべてがその証拠にしか見えない。もうすでに、小さな違和感が画面いっぱいに出ているにもかかわらず、そこには目がいかない。

そこに、名探偵登場です。その名探偵は、私が見過ごしていた小さな違和感を確実にキャッチしています。だから、私が犯人と決めつけた人が犯人ではないことがわかる。その人が犯人である場合の違和感や齟齬をほっておけないからです。その上で、私が気付かなかった超意外な人が犯人であることを告げる。名探偵にとっては、意外でも何でもない人ですが。

ここで重要なことは、この小さな違和感や齟齬を見落とさない、誠実な見方だと思います。人間ですから、自分の都合の良いように事実を捉えたい。だから、見過ごしてはいけないかった小さな違和感や齟齬は、見過ごしたい。つじつまが合っているように見えるその筋は、本当はつじつまが合っていない。つまり、論理的ではない筋があたかも本当のように思ってしまうのです。真に論理的な人は、小さな違和感ですらありのまま具体的に受け止め、齟齬が起きないような筋を誠実に積み上げることができるのです。あ～こんな人になりたい！！

しかし、簡単にはうまくいかなそうです。だから、毎日、自分の都合の良い受け止めばかりをしてはいないか、と誠実に生きていかなければならぬと思う今日この頃です。